様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成 23 年　4 月　9 日現在

機関番号：15401
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20520616
研究課題名（和文）　近代中国における民俗・象徴・儀礼と秩序の構成

研究課題名（英文）　Folk Customs, Symbols, Rituals and the Formation of Social Order in Modern China

研究代表者
丸田 孝志（MARUTA TAKASHI）
広島大学・総合科学研究科・准教授
研究者番号：70299288

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：民俗　象徴　儀礼　秩序　国民統合　中国共産党　日本傀儡政権　憲政

１．研究計画の概要

本研究は、近代中国の政治権力による民俗・信仰の利用・改造、近代的政治象徴・儀礼の導入過程の検討を通じて、文化・民俗の再編が、政治動員、階級意識・国民意識の創出、社会秩序の構築において果たした機能について考察するものである。多様な中国社会を統合する政治の原理を考察するため、地域権力と農村社会の関係を主要な検討対象とし、中国共産党（中共）根拠地と日本傀儡政権などとの比較を行う。また、その際、私的ネットワークの拡大と社会を代替する国家権力の発展という中国独自の権力と社会の関係に着目し、中華人民共和国成立に至るまでの時期の統合の問題を検討する。

この他、国家統合の問題を長期的な視点から確認するために、清末から民国初期までの中央と地方の編成に関わる憲政の問題を検討課題に加える。

２．研究の進捗状況

中共根拠地については、冀魯豫区を中心に、内戦遂行における大衆動員の過程を、従来分析視角として用いられてきた階級区分論でなく、人々の政治的態度や選択、それに伴う地位・資格などを包括する「政治的等級区分」という概念によって分析し、このような特徴をもつ大衆動員の中で顕著に確認される民俗利用、儀礼、象徴の意義について論じた。

中共政権における毛沢東像については、実際に使用された写真や版画を発掘し、大衆動員においてこれらがどのように使用されたかを検討した。毛像は農村においては、個別家庭を司祭する神像の代替として使用される一方で、会門的結合によって党組織を立ち上げる際の「天」に替わる盟誓の対象となり、また、闘争の急進化に伴い大衆の権力の象徴としての性格を強めていった。また、農村における階級闘争と都市を包括した連合政府という中共権力の二重性に即した、毛像の使用の特徴について明らかにした。

日本傀儡政権については、中共・国民政府・汪精衛政権の新暦・農暦、象徴の使用に関する政策と比較しつつ、記念日活動、民俗利用、暦と時間に関する政策を検討した。中共が国共関係の悪化後、国民政府の権威から離れて独自の記念日を強調していくのに対して、日本傀儡政権は、次第に国民政府の記念日体系を尊重するようになり、同政府の権

威に基づいて正統性を主張するようになっていったこと、民俗利用を通じて政権の正統性を訴える一方で、中共に比べて個別家庭の民俗を十分に利用することができなかったことなどを明らかにした。この他、中共政権、傀儡政権ともに政治的意義の理解を前提としない職能・帰属集団別記念日を新暦の社会への浸透に利用していた状況が確認できた。

研究分担者は、清末から北京政府期に至る立憲改革の過程を、日本の憲政議論との関係において検討し、行政府の権限の確立、中央―地方関係の調整など、近代化において存在した国家統合に関わる問題を明らかにした。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

階層間の流動性が比較的大きく、私的な人間関係によって安全保障が担保されるという中国の社会情況に応じた政治動員の手法と、流動性の中で安全保障を求める社会の側の権力への対応の手法について、その特徴を確認できた。民俗的な儀礼、象徴は、このような社会的流動性と安全保障の問題に対応する形で形成されており、これらを利用した中共の動員手法は、伝統的な権威に価値を認める大衆の心性に適応したものであった。

日本傀儡政権と中共政権の民俗利用、象徴の使用および時間に関する政策の比較については、国民政府、汪精衛政権の対応も視野に入れることによって、これら諸政権の対抗関係の中で、それぞれの政権の正統性の根拠の置き方、民俗への対応の手法など政策の特徴を一定程度明らかにできた。この他、中央と地方の権力関係の調整が、近代中国の国家統合において、一貫して重要な課題であることが確認できた。

４．今後の研究の推進方策

中共の冀魯豫区根拠地においては、軍事動員と党組織の拡大・整頓に関する史料の収集をほぼ終えているので、これらを民俗利用と社会統合原理に関するこれまでの研究視角に照らして分析し、中共の政治動員・統合政策の全体像を描きたい。追悼の民俗利用に関する問題も、このテーマに即して検討される。象徴については、毛沢東像の形式の普及過程、使用情況を延安と各根拠地、農村と都市の連環の中で位置づけ直し、農村の民俗と都市の文化における権力の表象の手法を確認する。これらによって、中共による全国政権確立の意義を中国の社会と権力の伝統的関係の継承・発展の文脈に位置づけて論じるとともに、日本傀儡政権などとの比較によって中共権力の統合政策の特徴を確認したい。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

1. 丸田孝志「日偽政権与中国共産党根拠地的時間与象徴」『「近代中国与日本」学術研討会論文集』，査読無，2010，pp166-199

2. 曽田三郎「熊希齢内閣的《政府大政方針宣言》与日本人的中国立憲国家論」『「近代中国与日本」学術研討会論文集』，査読無，2010，pp20-42

3. 丸田孝志「国共内戦期冀魯豫区の大衆動員における政治等級区分と民俗」『アジア社会文化研究』，査読有，2010，pp133-161，

〔学会発表〕（計６件）

1. 丸田孝志「冀魯豫区の政治動員と民俗・象徴」，シンポジウム「戦争と社会変容」（中国基層社会史研究会）2010 年 7 月 24 日，東京都

〔図書〕（計１件）

1. 曽田三郎『立憲国家中国への始動―明治憲政と近代中国―』思文閣出版，2009，382

〔その他〕

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00029735